

静岡市健康爛漫計画（第3次）

パブリックコメント用概要資料

計画期間：令和6年度～令和17年度

1 静岡市健康爛漫計画(第3次)の概要

基本理念

生涯を通じて、生きがいを持ち、健康な人が満ちあふれ、次世代にも笑顔が続くまち

誰もが充実して笑顔で生活できるまちが次の世代に続いていくことを目指します。

策定方針

- ① 誰一人取り残さない健康づくり
- ② より実効性をもつ取組の推進

多様化する社会において集団に加え個人の特性も重視し、誰一人取り残さない健康づくりを進め、より効果的に健康増進の取組を進めます。

基本的な方向

- ① 個人の行動と健康状態の改善
- ② 社会環境の質の向上
- ③ ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

● 国の健康づくり運動である『健康日本21』の方針と揃えて策定しました。

- ① 生活習慣改善に加え、生活習慣病発症予防・重症化予防に継続して取り組みます。
- ② 健康に関心の少ない人も含め誰もが自然に健康になれる環境づくりを推進し行政だけでなく、市民・企業・教育機関等多様な主体が協働・連携して健康づくりを進めます。
- ③ 胎児期から高齢期まで人の生涯を連続的にとらえた健康づくりを進めます。

目標

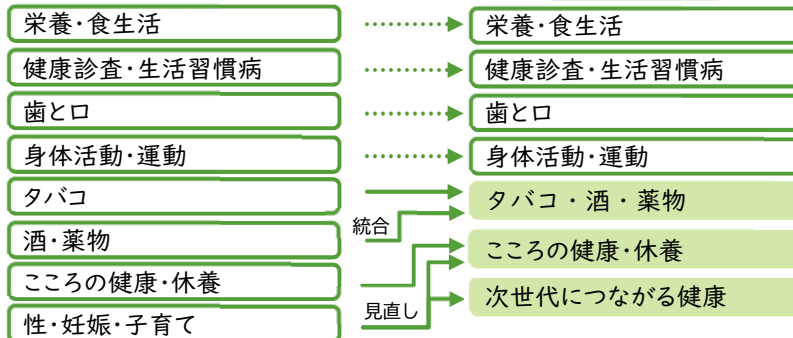
健康寿命の延伸 令和17年：男性75.4歳、女性78.2歳
(令和元年：男性73.1歳、女性75.3歳)

施策分野

● 計画の理念や方針を踏まえ、施策分野を見直しました。

第2次計画

第3次計画



2 健康爛漫計画(第2次)の最終評価（主要なものの抜粋）

【評価】 A：達成 B：改善 C：変化なし D：悪化

分野	評価指標	△-ライン値 (H23)	最終目標値	最終実績値 (R4)	最終評価	
栄養・食生活	朝食を欠食する人の割合の減少（青年期）	27.8%	10%以下	29.9%	D	・朝食欠食率が増加 ・小学生の孤食が増加
	共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）（小学生・朝食）	5.3%	減少傾向	9.5%	D	
健康診査・生活習慣病	糖尿病有病者の割合の減少（男性）	8.6% (H24)	7.0%	13.0%	D	・糖尿病有病者の増加 ・がん検診受診率の低迷 ・メタボリックシンドローム該当者の増加
	糖尿病有病者の割合の減少（女性）	4.1% (H24)	3.0%	6.3%	D	
	がん検診の受診率の向上（男性・肺がん）	19.7% (H24)	40.0%	15.9%	D	
	メタボリックシンドロームの当該者の割合の減少	13.9% (H24)	10.0%	21.1%	D	
歯と口	歯科検診受診率の向上（青年期）	18.5%	28.0%	37.1%	A	・青年期の歯科受診率が他の年代より低い
身体活動・運動	1日1時間以上運動する子どもの割合の増加（4歳～就学前）	18.7%	増加	8.8%	D	・身体を動かす習慣の減少 ・高齢者転倒経験者の増加
	過去1年に転倒したことがある人の割合の減少（65歳以上）	14.0%	7.0%	18.0%	D	
タバコ	子どもの自宅における受動喫煙の機会の減少（1～12歳）	9.7%	3.0%	6.9%	B	・喫煙・受動喫煙による健康リスクがある
酒・薬物	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合の減少（20～64歳女性・2合以上）	16.3%	13.9%	18.3%	D	・生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合増加（特に女性）
こころの健康・休養	睡眠による休養が十分とれない人の割合の減少（中年期）	41.5%	34.0%	52.7%	D	・睡眠による十分な休養がとれていない人の割合増加
性・妊娠・子育て	産後に気分が沈んだ人の割合の減少（1～3歳保護者）	36.5%	減少傾向	44.7%	D	・産後に気分が沈んだことのある人の割合増加 ・性感染症に関する知識を有する人の割合減少
	性感染症に対する正しい知識をもつ人の割合の増加（中学生）	30.5%	100.0%	21.3%	D	

● これらを踏まえ、各健康分野の目標や取組内容を決めました。

3 分野ごとの現状・課題と取組方針及び重点・追加評価指標

現状と課題を踏まえ、取組方針を見直しました。

・課題解決に、特に関係する指標を重点評価指標に設定しました。
 ・国の評価指標を参考に新たに指標を追加しました。

分野	現状と課題（数値はベースライン→最終評価 もしくは最新値）	取組方針	評価指標（重点及び追加指標）
栄養・食生活	<ul style="list-style-type: none"> 朝食欠食率が増加（青年期：27.8%→29.9%） 肥満者の増加（20～64歳男性：25.7%→28.9%） 野菜摂取量は、国目標350gに対し、251gと少ない（成人） 小学生の孤食が増加（朝食：5.3%→9.5%） 適切な食習慣の獲得・バランスの良い食事を選択するための支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> すべての世代での食育の推進 栄養バランスの取れた食事を選択するための周知啓発の強化 栄養・食生活を充実するための環境整備 飲食関係者へのヘルシーメニュー提供等民間企業との連携【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を欠食する人の割合の減少 適正体重を維持している人の増加 共食の増加 栄養バランスに気をつけている人の割合の増加 子どもの肥満・高齢者のやせの減少【追加】
健康診査・生活習慣病	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病有病者割合の増加（男性：8.6%→13.0%） 高血圧症有病者割合の増加（女性：22.7%→24.5%） メタボリックシンドローム該当者の増加（13.9%→21.1%） がん検診受診率の減少（肺がん男性：19.7%→15.9%） 生活習慣病有病者の減少に向けた取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 特定健診・がん検診受診率向上の推進 糖尿病・高血圧症等生活習慣病対策の強化 研究機関と連携したデータ分析と効果的な施策の検討【新規】 若い世代からの生活習慣改善の推進 保険者や企業と連携した健康づくりの推進【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> 高血圧有病者の割合の減少 糖尿病有病者の割合の減少 がん検診の受診率の向上 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率の向上 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合の減少 血糖コントロール不良者の減少【追加】 脳血管疾患・心疾患・がんの年齢調整死亡率の減少【追加】 健康経営に取り組む企業数の増加【追加】
歯と口	<ul style="list-style-type: none"> 歯科健診受診率は増加しているが、青年期が最も低い（37.1%） 歯科健診受診を含めた、口腔ケアの習慣化のための取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 歯科健診の受診率向上の推進 口腔内環境や口腔機能を維持・改善するための支援 	<ul style="list-style-type: none"> 歯科健診受診率の向上 よく噛んで食べることができる者の割合【追加】 ※「歯と口腔の健康づくり推進計画～はつらつスマイルプラン～」で、より詳細な評価指標を設定し取組を推進
身体活動・運動	<ul style="list-style-type: none"> 1日1時間以上運動する子どもの割合の減少（4歳～就学前：18.7%→8.8%） 20～64歳の運動習慣者（1日30分、週2回以上）は男性で26.5%、女性で24.9% 転倒経験のある人の増加（前期高齢者：14.0%→18.0%） 筋力低下による転倒や身体活動量の不足による肥満を予防するため、身体を動かす習慣づくりの支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへのからだを動かす遊びやスポーツの機会の提供 若い世代から高齢期までの身体を動かす習慣づくりの推進 骨粗鬆症予防の情報発信・検診受診勧奨の強化 自然と体を動かすことができる環境づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 1日1時間以上体を動かす遊びや運動をする子どもの割合の増加 運動習慣者の割合の増加 過去1年に転倒したことのある人の割合の減少 骨粗鬆症検診受診率の向上【追加】
【分野統合】 タバコ・酒・薬物	<ul style="list-style-type: none"> 20歳以上の喫煙率は減少（18.0%→14.9%） 高校～青年期の6割以上が受動喫煙の経験あり 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合の増加（女性2合以上：16.3%→18.3%） タバコ・酒の依存性や、健康被害について、正しい知識の普及と20歳未満の喫煙・飲酒の防止を進めていく事が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙・受動喫煙の害について正しい知識の普及 受動喫煙防止の環境整備の推進 タバコ・アルコール・薬物によるリスクの周知・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 20歳未満の者の喫煙をなくす 20歳以上の喫煙率の減少 生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合の減少 COPD※の死亡率の減少【追加】 ※慢性閉塞性肺疾患（長年の喫煙習慣等により肺に炎症がおこる病気）
こころの健康・休養	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠による十分な休養がとれていない人の割合が増加（中年期：41.5%→52.7%） 地域の奉仕活動や催し物へ自主参加している人の割合は減少（65歳以上：57.2%→54.4%） 産後に気分が沈んだ事のある人の割合の増加（1～3歳保護者：36.5%→44.7%） どのライフステージにおいてもこころの健康が保てるような相談・支援体制の推進、生きがいを持って暮らせるための支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> こころの健康を保つための支援の充実 十分な睡眠・休養がとれる生活リズムの推進 誰もがいつまでも生きがいを持って暮らせるための社会参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスのあった人の割合の減少 睡眠で休養がとれている者の増加 悩み等の相談相手のいる人の割合の増加 地域の奉仕活動や催し物へ自主参加している人の割合の増加 産後に気分が沈んだ人の割合の減少 睡眠時間が十分に確保できている者の増加【追加】
【分野見直し】 次世代につながる健康	<ul style="list-style-type: none"> 20代女性の約4人に1人がやせ（24.1%） 1日1時間以上運動する子どもの割合の減少（4歳～就学前：18.7%→8.8%）（再掲） 性感染症に関する知識を有する人の割合の減少（中学生：30.5%→21.3%） 将来の生活習慣病の発症予防を見据え、子どもの頃から健康的な生活習慣を身につけられるような支援が必要 また、性・妊娠・出産に関する正しい知識普及が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ※分野見直しにより、胎児期からの健康が守られるような健康づくり（ライフコースアプローチ）の取組を推進していきます 妊娠前・妊娠中の健康づくりへの支援 子どもの健康的な生活習慣獲得のための支援 性に関する正しい知識の普及・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 性感染症に対する正しい知識をもつ人の割合の増加 児童・生徒における肥満傾向児の減少 若年女性のやせの減少 1日1時間以上体を動かす遊びや運動をする子どもの割合の増加 20歳未満の者の喫煙をなくす

胎児期からの健康が守られ、子どもたちが生涯にわたり健康でいられる事を目指し、分野名称を「次世代につながる健康」に変更しました。